

特別支援学校（聴覚障害）におけるキャリア教育実態調査

○新谷 洋介 原田 公人 定岡 孝治 山本 晃

（国立特別支援教育総合研究所）

KEY WORDS: 特別支援学校（聴覚障害） キャリア教育 学部主事・キャリア教育担当者

はじめに

国立特別支援教育総合研究所聴覚障害教育研究班では、キャリア教育の推進に伴い、学校卒業後までを見通した一貫教育の重要性を再認識し実態調査を実施した。

1. 目的

全国の特別支援学校（聴覚障害）におけるキャリア教育の、現状の把握と、学部ごとの課題を明らかにすることを目的とし実態調査を実施した。

2. 調査対象・調査時期

（1）調査対象

全国の特別支援学校（聴覚障害）92校に対して、幼稚園、小学部、中学部、高等部・専攻科の学部主事各1名、および、キャリア教育担当者各1名へ調査を実施した。

（2）調査時期

平成28年10月～12月

3. 調査方法

特別支援学校（聴覚障害）校長宛てに調査依頼を送付し、回答者に対して本研究所 Web ページの調査票ファイルに回答の上、回答用電子メールアドレスに送付を求めた。本調査は、本研究所倫理審査委員会の許可を得て実施した。

4. 調査内容

（1）基本情報

担当学部、担当、教職経験年数、勤務校在籍年数、特別支援教育（聴覚障害）経験年数、他

（2）指導の実際

キャリア教育の指導場面、キャリア教育に関わる指導内容（個別指導・集団指導）、キャリア教育の推進・充実のための学部での課題、他

（3）学校卒業後の進路（高等部のみ）

継続的に進学、就労するために重要なこと

（4）キャリア教育に関わる指導内容の評価方法

キャリア教育に関わる指導内容の評価方法

（5）連携している関係諸機関と卒業生との交流

連携している福祉機関や行政機関、医療機関等、卒業生との交流、卒業生の保護者との交流

5. 調査結果

ここでは、特に幼稚園からの指導に着目しキャリア教育に関わる指導および課題の調査結果を報告する。なお、回答は65校(70.7%)より得られた。

（1）キャリア教育に関わる指導（個別指導）

キャリア教育に関わる指導について、「行っている」と回答した者は、学部主事では、幼稚園部 84.8%、小学部 77.6%、中学部 95.7%、高等部 87.8%であり、キャリア教育担当者は、幼稚園部 90.0%、小学部 92.1%、中学部 87.8%、高等部 89.2%であった。

（2）キャリア教育に関わる指導（集団指導）

キャリア教育に関わる指導について、「行っている」と回

答した者は、学部主事では、幼稚園部 98.0%、小学部 98.0%、中学部 100%、高等部 100%であり、キャリア教育担当者は、幼稚園部 100%、小学部 100%、中学部 100%、高等部 97.3%であった。

（3）キャリア教育の推進・充実のための学部での課題

キャリア教育の推進・充実のための学部での課題を、「早期からの系統的な指導」、「家庭の理解や協力」、「キャリア教育に関する家庭への理解の啓発」、「家庭の協力」、「地域、進路先等との連携」、「キャリア教育の教育課程上の位置づけ」、「キャリア教育に関する情報の十分な保有」、「キャリア教育に関する指導体制の明確化」、「キャリア教育に関する評価基準の保有」、「その他」から3つ以内を選択させた。

学部主事、キャリア教育担当者、全学部共通して、「早期からの系統的な指導」が上位3件に含まれていた。

（4）継続的に就労するために重要なこと

継続的に就労するために重要なことを、3つ以内で選択させた。上位を占めた項目は、学部主事、キャリア教育担当者が共通しているものは、「本人のパーソナリティや態度が、周囲（教員、仲間等）に理解をもって受け止められている」、「周囲（上司、仲間等）が聴覚障害を理解しようとしている」、「保護者が協力的である」、「卒業後も継続的に本人に対してフォローを行う」、「必要に応じて連携を行う」であった。

学部主事のみ上位であった項目は、「卒業後、日常生活上の配慮（仲間づくり等）がなされている」であり、キャリア教育担当者のみ上位であった項目は、「卒業後も継続的に就労先に対してフォローを行う」であった。

6. まとめ

キャリア教育に関わる指導内容は、個別指導、集団指導共に、幼稚園部から「行っている」と回答した割合が高い傾向がみられ、早期からの指導を行っていることが示された。キャリア教育の推進・充実のために学部で課題であると思われるものは、「早期からの系統的な指導」を課題としての回答の割合が多かった。このことは、幼稚園部からの早期教育の重要性が推察された。

継続的に就労するために重要なことの設問に対して、キャリア教育担当者が、学部主事よりも「卒業後も継続的に就労先に対してフォローを行う」を多く選択したことから、キャリア教育担当者は、就労先の環境面や人間関係に対して意識が高く、学部主事との意識の違いが見られた。

学部主事とキャリア教育担当者間の指導面や課題に関する項目の大きな意識の違いは見られず、問題意識が共通していることが示唆された。

おわりに

本調査から、幼稚園部からの継続したキャリア教育が、やがては高等部卒業後の就労に繋がっていくことが考えられた。調査結果の詳細は、調査報告書で報告する。

(ARAYA Yosuke, HARADA Kimihito, SADAOKA Koji, YAMAMOTO Akira)